

国語 第1学年 おはなしをよもう

検討会の想定問答

指摘1：この単元で身に付けることは何か。

返し：サラダ作りに関わる人物がどの順に現れ、何を知らせたかを確かめる。繰り返されるやり取りを楽しみながら、同じところと違うところを行動の言葉から捉える。C(1)イの学習として、場面カード。人物、行動、伝えたことを自分の絵と言葉で表し、順に並べて物語を説明する。

指摘2：何をもって学習できたと判断するか。

返し：おおむね満足できる状況は、場面ごとの人物の行動を確かめ、出来事の順に物語の内容の大体を捉えているという姿で捉える。語句や本文を示さず結論だけ述べる場合は、根拠を確かめる支援を行う。発言の回数や記述の長さでは判定しない。C(1)イの姿を本時の発言と記録に照らす。

指摘3：活動が楽しいだけで終わらないか。

返し：場面カードを残す。人物、行動、伝えたことを自分の絵と言葉で表し、順に並べて物語を説明する。活動後に、どの言葉を根拠にしたかを確認することで、C(1)イに関わる学習の中身を確認する。

指摘4：難しさのある児童にはどんな支援をするか。

返し：人物の登場順を取り違える。料理の材料を覚えるだけになる。これについて、登場人物・したこと・知らせたことを場面ごとのカードにする。長い会話は語のまとまりで音読し、句読点やかぎの役割を確認する。調理の実施を前提にしない。〔知識及び技能〕(1)ウ・〔知識及び技能〕(2)アとC(1)イを切り離さず扱う。

指摘5：考えが違ったときはどう扱うか。

返し：教師の結論を選ばせず、「この場面では、誰が来て、何をしましたか。前の場面と同じところと違うところは何ですか」に戻す。言葉や本文で確かめられる点と、個人の感じ方を分け、C(1)イに関わる根拠を話し合う。

指摘6：本時の評価で態度まで決められるか。

返し：本時の参加の様子だけでは決めない。学年の目標(3)を受け、単元を通した記録と見直しの理由を合わせて判断する。発言の多さや従順さを態度の評価にしない。

指摘7：端末がない学級でもできるか。

返し：場面カードは紙に記録できる。人物、行動、伝えたことを自分の絵と言葉で表し、順に並べて物語を説明する。端末があれば書き直し前後を保存して比較する。道具の操作をC(1)イの評価の代わりにしない。

指摘8：時間が足りないとき、どこを残すか。

返し：総時数の出典は東京書籍の年間指導計画である。活動量を調整する場合も、本時の問いを自分で考える場面と、根拠を比べて記録を見直す場面は残す。C(1)イで目指す姿が確認できるように配当を組み直す。

指摘9：自分でサラダを作る必要があるか。

返し：C(1)イとC(2)イの学習は、人物の行動を文章で確かめることで成り立つ。調理の成否や食品の好みを国語の評価にしない。

指摘 10：振り返りを感想だけにしないためには。

返し：「この場面では、誰が来て、何をしましたか。前の場面と同じところと違うところは何ですか」への答えを学習前後で読み比べる。変えた点に加え、理由を確かめて残した点も書く。C(1)イに関わる言葉の捉え方・使い方を記録する。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」(@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ

